

第2回JCAR北極域研究計画ワークショップ プログラム

開催日時: 2018年9月19日(水) 13:00~17:00

場所: 国立極地研究所3階セミナー室

2018年9月18日現在

	開始	終了	氏名	所属機関	タイトル
	13:00	— 13:05	青木輝夫	JCAR委員長(岡山大学大学院自然科学研究科)	開会の挨拶
座長			羽角博康	東京大学大気海洋研究所	
	13:05	— 13:15	杉浦幸之助	富山大学大学院理工学研究部	メソスケール規模における積雪の動態把握
	13:15	— 13:25	古屋正人	北海道大学大学院理学研究院	北極域の森林火災: 要因の特定と予測および大気圏・生物圏・永久凍土・自然災害・地域社会経済への影響評価
	13:25	— 13:35	早坂洋史	北海道大学北極域研究センター	北方林での大規模森林火災発生の気象現象の解明 - 気候変動に伴う自然災害の緩和
	13:35	— 13:45	早稲田卓爾	東京大学大学院新領域創成科学研究科	北極海における波浪とその影響
	13:45	— 13:55	西野茂人	海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター	北極海水縁域横断観測
	13:55	— 14:05	池田元美	北海道大学兼海洋研究開発機構	高解像度海洋海水モデル開発を策定するための確率密度関数モデル導入
	14:05	— 14:15	森本真司	東北大学大学院理学研究科	北極域における温室効果気体濃度・同位体比の長期変化
座長			田畑伸一郎	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	
	14:15	— 14:25	西谷 望	名古屋大学宇宙地球環境研究所	SuperDARN国際ネットワークによる北極域電離圏電離圏プラズマ・超高層大気の緯度間相互作用の研究
	14:25	— 14:35	村山英晶(代理発表予定)	東京大学大学院新領域創成科学研究科	デファクトスタンダードを目指す北極研究観測機器開発
	14:35	— 14:45	田中雅人	北海道大学北極域研究センター	持続的北極域観光・クルーズに向けたあるべき姿と課題・対策
	14:45	— 14:55	稲垣 治	神戸大学大学院国際協力研究科	今後求められる北極国際法研究とは?: 神戸大学極域協力研究センター(PCRC)の3年間の研究を踏まえて
	14:55	— 15:05	大西富士夫	北海道大学北極域研究センター	複雑化する北極政治に関する総合的研究
	15:05	— 15:15	幡谷咲子	神戸大学大学院国際協力研究科	北極評議会の組織的・機能的展開に関する研究
	15:15	— 15:25	立澤史郎	北海道大学大学院文学研究科	アジア北極圏の生物多様性の実態と変動(特に温暖化が鳥獣類の分布(群集構造)と種間関係
	15:25	— 15:35	休憩		
	15:35	— 15:45	兒玉裕二	国立極地研究所国際北極環境研究センター	長期構想改訂について、国際組織のサイエンスプラン
	15:45	— 15:55	山口 一	東京大学大学院新領域創成科学研究科	新砕氷研究船プラン
	15:55	— 16:05	榎本浩之	国立極地研究所国際北極環境研究センター	北極研究について(TBD)
	16:05	— 16:55	座長: 青木輝夫	総合討論	①提案の活かし方 ②ポストArCSIにおけるJCARの役割 ③新砕氷調査船について
	16:55	— 17:00	青木輝夫	JCAR委員長	閉会の言葉